

平成 30 年度すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム報告書

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム 縁が育む 地域の力 ～ 町会・自治会とボランティア ～

平成 30 年 7 月 7 日 (土)



入口は違っても 地域を思う心は同じ

防災、孤立死、子育ての悩み…。
地域の難問を解決するのは、地域の力。まさに「頼れるのは近くの他人！」ですね。
地域のご縁、ボランティアのご縁、今日たまたまのご縁…。
縁を育てて地域力をアップするにはどうすればいいか。
ワクワクするアイデアを考えましょう。

入場無料

縁が育む 地域の力 ～町会・自治会とボランティア～



すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム

平成 30 年 7 月 7 日 (土)

13:00～16:30 開場12:00

●事例発表 アイデア次第で地域力アップ!

コーディネーター 静間 宏治氏
(KT福祉研究所主任研究員)

- ・地域のみんが、児童館の応援団!
- ・ひとつになった避難訓練
- ・地域丸ごと小地域福祉活動

●グループディスカッション

すみだリバーサイドホール
墨田区吾妻橋1-23-20

参加申し込み 所属・氏名を裏面の参加申込書あるいは電話にて7月4日(水)までに下記申し込み先へ

●墨田区福祉保健部厚生課
☎03-5608-1163 FAX03-5608-6403

●すみだボランティアセンター
☎03-3612-2940 FAX03-3610-0294



【主催】 すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会 墨田区 社会福祉法人墨田区社会福祉協議会



参加申込書

●以下の内容にご記入いただき、7月4日(水)までにFAXまたはEメールでお申し込みください。

名前

所属団体名等(個人の方は記入しなくて結構です)

一時保育(1歳~就学前まで)及び手話通訳を希望する場合は7月2日(月)までにお申し込みください。

どちらかに○をつけてください

1 一時保育希望(お子さんの年齢 才)

2 手話通訳希望

●墨田区福祉保健部厚生課

FAX : 03-5608-6403

Eメール : KOUSEI@city.sumida.lg.jp

☎03-5608-1163

●すみだボランティアセンター

FAX : 03-3610-0294

Eメール : vc@sumida-shakyo.or.jp

☎03-3612-2940

※どちらに申し込んでいただいてもけっこうです。

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム

プログラム

13:00

12:00 開場 パネル展示

オープニング

活動事例紹介 ●コーディネーター 静間 宏治 氏 (KT福祉研究所主任研究員)

13:15

「アイデア次第で地域力アップ！」

～町会・自治会とボランティアがつなく人の縁～

地域のみなが、
児童館の応援団!

児童館は子どもが育つ活動拠点
人がつながる地域の拠点

児童館では、町会・自治会、地域にお住いの
方々などに縁日やおまつりだけでなく、普段
の遊びにもかかわっていただいています。

地域の方々の交流の機会、子育て支援の
場ともなっている
児童館を応援する
方々の活躍を紹介
します。



ひとつになった
避難訓練

町会・保育園・企業・学生
みんなで訓練したからわかったこと

各地で起こる災害を教訓に、町会関係者、
地元の保育園、企業らが一緒になって、避難
訓練を行いました。

「子どもの動きがわかった」「地域の人と顔
見知りになれた」
など、一緒に訓練
したからこそわ
かったことを紹介
します。



地域丸ごと
小地域福祉活動

若い世代も参加する
福祉活動にするには?

小地域福祉活動は町会・自治会地域をひと
つのエリアとする地域の支えあい活動です。

町会・自治会役員や民生委員・児童委員だ
けではなく、地域の方が「自分ごと」として支
えあうために特に
若い世代が積極的
に活動している地
域を紹介します。



14:30

グループディスカッション

地域力アップのアイデアを出し合おう

入口は違っても、地域を思う心は同じです。
地域の課題解決に必要な地域力をアップ
させるためにどんなことができるのか、アイ
デアを出し合って解決策を探りましょう。



16:00

発表会

アイデア・ヒントを共有しよう

●コーディネーター 静間 宏治 氏
(KT福祉研究所主任研究員)

各グループで話し合ったことを発表しましょう。気が付
かなかったヒントが見つかるかもしれません。

16:30 エンディング

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムが7月7日に開催されました

■ すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム概要

1 趣旨

墨田区における地域福祉の推進とボランティア活動への参加促進を図るため、民生・児童委員、ボランティア活動者、小地域福祉活動参加者、福祉施設・福祉事業者など地域福祉とボランティア活動の関係者や活動に関心を持つ者等が一堂に会し、地域福祉・ボランティア活動について一緒に学び、考え、交流し、広く活動への参加を呼びかける。

今年度は「縁が育む 地域のカ ～ 町会・自治会とボランティア ～」をテーマとした。

2 日時

平成30年7月7日(土)13時から16時30分まで

3 場所

すみだリバーサイドホール

4 内容



(1) 活動事例紹介

「アイデア次第で地域カアップ！ ～町会・自治会とボランティアがつなぐ人の縁～」

○地域のみんなが、児童館の応援団！～児童館は 子どもが育つ活動拠点 人がつながる地域の拠点～

○ひとつになった避難訓練 ～町会・保育園・企業・学生 みんなで訓練したからわかったこと～

○地域丸ごと 小地域福祉活動 ～若い世代も参加する福祉活動にするには？～

(2) グループディスカッション

「地域カアップのアイデアを出し合おう」

(3) 発表会

「アイデア・ヒントを共有しよう」

5 主催

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会

墨田区 墨田区社会福祉協議会

6 来場者数

約160名（関係者含）



■ 司会者紹介

今年度は実行委員の山田委員、五十嵐委員が司会者でした。



■ 開会挨拶

開催にあたり、山本墨田区長、西原墨田区社会福祉協議会会長、鎌形実行委員長から主催者の挨拶がありました。



西原会長



山本区長



鎌形実行委員長

■ 活動事例紹介

「アイデア次第で地域力アップ！ ～町会・自治会とボランティアがつなぐ人の縁～」

今回は、縁を育て地域力アップに取り組んでいる活動事例を紹介しました。



コーディネーター 静間 宏治氏

第3期 墨田区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会 副委員長

(淑徳大学・千葉敬愛短期大学非常勤講師)

○ 地域のみんが、児童館の応援団！

～児童館は 子どもが育つ活動拠点 人がつながる地域の拠点～

発表者 中川児童館長 宮田 進 氏

児童館では、町会・自治会、ボランティアサークルの方、近隣の高齢者の方、小学校の親の会など、えんにちやおまつりだけでなく、普段の遊びにも関わっていただいています。

そしてそれは、地域の方々の交流の機会、子育て支援の場ともなっています。

今回は、こんな児童館を応援する方々の活躍を紹介しました。

【概要】

児童館は区内に11か所あり、様々なプログラムを通して子どもたちの健全育成を図っている。遊びの形成だけでなく、仲間づくり、居場所づくりの場、乳幼児とその保護者が集まり情報交換ができる場など、地域の子育て、健全育成の拠点としての機能を果たしているところである。現在、各児童館で力を入れているのは、子育て相談事業である。ホームページや各館のお知らせでPRをしているが、まだまだ認知度が低いので、地域の皆様にお伝えいただき、活用していただければと思っている。

また、各児童館では学童クラブも併設している。基本的に仕事やその他の事情で、昼間、保護者の方がない小学校1年生から3年生までのお子さんを預かる場所である。



中川児童館と地域の方とのつながりについてだが、昭和58年の開館当時から児童館を地域で支えていこうと、4町会、1自治会、子ども会に呼び掛け、地域ボランティア組織「中川つくし会」が結成された。子どもは家庭の中だけで育てるのではなく、地域で見守る、社会性を育てるという意識から町会がボランティアとして児童館の行事に参加し、子どもたちの健全育成に寄与していこうというのが趣旨だった。これが今でも続いている。共催事業はほぼ毎月行われ、とくにえんにちなどは、町会、子ども会から多大な協力をいただいている。

しかし、設立当初は120名いた会員も現在は60名ほどになっているので、今後もPRをし新たな会員

を増やしていくようにするべきだと思っている。設立当初の趣旨を大切にしつつ、現在の会員の方の思いも汲みながら継続していきたい。

職員の中からはボランティアの皆さんは手弁当で協力していただいているのだから、児童館が外に出ていく必要があるのではという話があり、職員も自分たちの時間を使って町会や子ども会の行事に参加しようという動きが出ている。えんにちの手伝いや、公園清掃などに参加することで、職員の名前を覚えていただき、地域とつながって、児童館の次の活動につながっていくと感じた。

そのほか、児童館では墨田区社会福祉協議会と行っている拠点型ふれあいサロンを月1回開催している。地域の高齢者と乳幼児を持つ親子の触れ合う機会を設ける事業だが、この事業を地域の民生委員さんがPRしてくださっている。とてもありがたいことで、普段遊びに来ない親子とのつながりもできるようになっている。

また、地域の方が来てくださって、将棋タイムという事業もやっている。地域の方と子どもたちが仲良くなるいい機会となっている。

児童館は、お子さんがいないとか、最近では利用していないといった方には敷居の高いところだと思うが、地域の方が関わってくださることで、その敷居はぐんと下がるのではないかと考えている。



コーディネーターから

Q 地域の大人と関わっているとき、子どもたちはどんな反応をしているか。

A 将棋タイムなど、町会長さんが師範として来てくれているが、子どもたちにとっては「地域のおじいちゃん」であり、「じいちゃん、じいちゃん」と楽しそうに接している。町会長さんもお孫さんに接するように優しく接してくださっている。

講評：地域の方が施設に来てくださることはよくあることだが、職員が外に出ていく、一人一人が地域に出ていくということはあまりないことで、まさにこれが「地域のつながり」である。

○ ひとつになった避難訓練

～町会・保育園・企業・学生 みんなで訓練したからわかったこと～

発表者 曳舟中町会長 須藤 正 氏

各地で起こる災害を教訓に、町会関係者、保育園園児、地元企業らが一緒になって指定避難場所までの避難訓練を行いました。

「子どもの動きがわかった」「保護者の防災意識も高まった」「地域の人と顔見知りになれた」など、一緒に訓練したからこそわかったこと、つながったことを紹介しました。

【概要】

曳舟中町会は東武曳舟駅、向島税務署を中心とした1800世帯、戦災等でも燃えなかった地域がある町会である。

今までの防災訓練は、高齢の方、障害をお持ちの方を中心に行っていたが、今回は、新聞社の協力を受け、町会、保育園、地元企業が一緒になって、避難訓練を実施した。





東日本大震災の時に、地元の人が幼稚園の子どもたちを避難誘導して助けたというのを聞いたが、今まで保育園の園児と一緒に避難訓練をやった経験がなかった。地震を想定し、一時集合場所に町会の皆さんが集合し、そこから園児を迎えに行き、東白鬚公園まで歩いてみたが、園児たちは歩き通した。しかし、行くまでの間は、あっちへ行ったりこっちへ行ったり大変で、実際の災害時は大人が見守らないと、大変だと思った。その後、墨田区社会福祉協議会の会議室で、どんなところに気を付けないといけないか、何が大変だったかを参加者同士で話し合った。今後は地元の病院も参加したいといっている。みんなが町会の一員であるということを知って一緒にやらなければいけないと思った。

コーディネーターから

Q その時の子ども達の様子はどうだったか。

A 子ども達は遠足気分を楽しそうだった。あんなに歩いたことはなかったと思う。小さい子どもを訓練するのは大変なので、大人が子どもの動きをよく把握しないといけないと感じた。

Q 企業が参加するというのは珍しいと思うが、そのように声掛けをしたのか。

A 町会から、防災訓練があることを企業に対しても案内し、一緒にやろうと呼び掛けている。今までは町会だけでやっていたが、これからはこのようにやっていくことが大切だと思った。訓練は何回も繰り返さないと災害時にできるものではない。

講評：会長さんが言われたように、訓練は何回も繰り返し実施しなくては身につかない。地域のつながりが大切である。

○ 地域丸ごと 小地域福祉活動

～若い世代も参加する福祉活動にするには？～

発表者 墨田区社会福祉協議会 新井 尚恵氏

小地域福祉活動は町会・自治会地域をひとつのエリアとして活動する地域の支えあい活動です。町会・自治会役員や民生委員・児童委員だけではなく、地域みんなが「自分ごと」として、支えあうために、特に若い世代が積極的に活動に参加している地域を紹介しました。

【概要】

社会福祉協議会で推進している「小地域福祉活動」とは、住民が主体的に行う福祉活動の総称である。そもそも「小地域」とはどこなのかということだが、これにはいろいろな考え方があり社協によって違うが、墨田区では町会・自治会を範囲としている。1つの町会・自治会の世帯数は、600から700世帯くらいが平均となっている。これが、顔見知りになれて、歩いて活動できる範囲と考えている。対象は子どもから高齢者まで、すべての人で、地域の方々の緩やかなつながりを作ること、今あるつながりを5年後も10年後もつなげていこうということが目的となっている。そして自分たちを支える次の世代を見つけていくということも大きな目的の一つである。



主に5つの活動があり、①戸別訪問（高齢の方、障害をお持ちの方、子どものいる家庭など「元気ですか」「困っていることはないですか」と定期的に訪ねるもの）②見守り、声掛け（日常的なあいさつや気になる人のおうちの前を通ってみるなど）③ふれあいサロン（町会会館などを使って地域の皆さんが集まって定期的なお茶のみ、福祉に関する勉強会などをする）④家事援助（簡単な家事の手伝い、ごみ出しの手伝いや買い物の付添など）⑤多世代交流行事である。

社会福祉協議会はその立ち上げを支援している。立ち上げの相談、活動していく中で相談を受けたり、活動者同士の連絡会を開催したり、助成金を出したり、保険に入ったりしている。

現在、小地域福祉活動が30地区、見守り活動まではいかないがふれあいサロンをやっているところが19地区、児童館や学校を拠点とした拠点型ふれあいサロンが4地区で行われている。平成12年度からこの活動を進めているが、爆発的に増えたのは東日本大震災の後である。町会の方や民生委員さんがいきなり訪問するのではなく、日頃から顔見知りになっておくことが大切だと思っていただき、地域を支えるのは地域だという考えが広まったと思われる。

この活動も18年目となり、次に活動していく世代につなげて行くことを考えていかななくてはならないと思うようになっている。そこで今日は若い人を巻き込むためにこんな活動をしているというところをいくつか紹介する。

押上文花町会は何年か前から、高齢者を見守る活動をしている。ふれあいサロンに来る方は年配の方が多いが、子ども会の役員をしている方など、若い方も入っている。

少しずつ若い人にも広がり、普段のみまもりには参加できないが、勉強会には参加したりしている。

次は京一旭町会だが、ここは再開発地域でマンションが多く、町会には入っていないが子ども会には入っているという方が多いところである。もともと防災意識の高いところだが、訓練に子ども会も参加してもらおうという取組をしている。子どもたちがスタンドパイプの練習をした後にすいか割をしたり、カレーを作ったりとお楽しみを入れることで地域のつながりを作っている。

次は向島五丁目東町会だが、ここは7～8年前から月1回のお食事会をしていたが、それがふれあいサロンとなり、活動が大きく広がっている。そんな中で次の世代に引き継いでいかなければいけないと思うようになり、若いお母さんたちが興味を持ってくれるようなヨガ講座やケーキ作り教室などを開催し、種をまくことを始めている。

3つの例をお話したが、どれもすぐに効果が出るものではない。たくさん種をまいて、育ててくれた方が次の世代の担い手になってくれたらという思いで、地道に活動されていると思う。参加した方の1割の方でも興味を持って活動者となってもらえたらいいと思う。

コーディネーターから

Q 今まで何か所も立ち上げ支援をしてきて、地域の方が何を一番大切にしていると感じているか。

A 下町の地縁の良さを次に何とかつなげていきたい。昔、お世話になったから、お返しをしたいということではないかと思う。



■ グループディスカッション

「地域力アップのアイデアを出し合おう」

地域には様々な活動をされている方がいますが、入口は違って、地域を思う心は同じです。活動事例の発表を受けて、地域の課題解決に必要な地域力をアップさせるためにどんなことができるのか、アイデアを出し合って解決策を探りました。



グループごとに話し合った内容を一部紹介します。

○参加者6人

テーマ「地域活動」

- ベンチの設置など、町の環境を改善することによって交流ができるのでは。
- 自主グループの継続は難しい。会場が不足。リーダーの育成が必要。
- サロンは人気の活動だが、主体となる人物がいない。
- ハードルをあげると若者は関わらない。できる範囲でやる。
- アクティブシニアの活動に期待する。
- 子どもを介して町会に関わるきっかけとなり、それがやがて地縁になる。
- ボランティア活動は楽しんでやるのが大切。
 - ⇒ 参加しやすい環境づくり、地域、社協のつながり、続けていける環境が必要
できる範囲でやるのが大切。

○参加者7人

テーマ「若い人を地域活動に巻き込むには」「サロン活動に男性を呼び込むには」

- 若い人を地域活動に巻き込むには
 - ⇒ 特効薬はない。
 - PTAの役員に町会に入ってほしい。
 - 町会の良さを知ってもらう。
 - 町会は目に見えるお金の使い方をしないと町会員は納得しない。
 - 「この町にいた証をつくらう」と誘う。
 - マンションで町会活動に参加した人がいたら、その人からマンション内に広げてもらう。
- サロン活動に男性を呼び込むには。
 - ⇒ お話をするだけではつらい。
 - 仲間がいないと男性は行きづらい。
 - 男性に興味のある内容（麻雀、囲碁、将棋など）を取り入れる。
 - 専門的なものなど、目的を持たせる（絵画教室など）。

○参加者8人

テーマ「災害（中でも水害）」

- ・ 町会役員の高齢化。若い世代は昼間地域にいない。
⇒ 中学生を担い手にできると良い。そのためには、普段からの関わりが大切。
- ・ 学校、は安全性確保のため地域の人が入りにくいため、地域と学校がつながりにくい現状がある。
⇒ 学校行事として学校と8町会が合同でやっている。（大声コンテスト・起震車体験など）
運営協議会で発信することも大切なことではないか。
訓練は大切なことだが、高齢化が課題となっているところもある。
- ・ 40代・50代に参加してもらうためには
⇒ 課題である。
- ・ 災害時に備えた備品の保管について
⇒ 1階に保管していると、水害時に持って上げられるかどうかわからない。
- ・ マンションに逃げたくても、オートロックで入れない
⇒ 事前に管理組合と調整しておくことも必要ではないか。
- ・ 企業や公共の建物に避難したい
⇒ 夜間にも対応できるようにしておきたい。

日頃から地域の方と企業・マンション等との話し合いが大切である。

○参加者7人

テーマ「活動を次の世代に引き継ぐにはどうしたらよいか」

- ・ 若い世代にすぐに役員になってくれというのは無理なので、たまに町会活動に参加してもらえないかと誘ってみる。
- ・ 町会の活動には古い伝統や組織があり難しいこともあるが、その方たちがいなくなったら続いてこなかったのでは、ねぎらいの言葉などをかけ、少しでも活動に関わる。
- ・ 適材適所。各自、できる範囲で活動する。
それぞれの立場を理解することが大切。
- ・ 敷居を低くして、新しい人に入ってもらうような土台、仕組みをつくる。



○参加者7人

テーマ「ボランティアについて」

- ・ ボランティア活動に対する価値観、考え方は人それぞれ違っている。
- ・ 独居が増えている。町会役員も高齢化しているが、高齢者から教わることはたくさんある。
ボランティアでもそれ以上に得るものが大きい。
- ・ 小地域福祉活動も頑張る人が3人いればできる。
- ・ 自分が町会等で何ができるのか、どんな役に立てるのかわからない。
- ・ やりたいボランティアにも年齢制限があったりする。
生活にゆとりがないとなかなかできない。ボランティアは自分のためにやっている。
- ・ ボランティアは自分の町会の外から始めた方が良いと思う。
- ・ 防災訓練等で一人暮らしの方を誘い出すのはどうか。
- ・ 子どもの時からボランティアを教えた方がいい。

○参加者9人

テーマ「担い手の高齢化、新しい担い手の不足」

- ・ 町会や老人会の役員の高齢化が進み、祭りなどではやり方がわからなくなっている面もある。
- ・ 役員や関係者が固定している。新しい人が入ってこない。
- ・ 就労世帯は地域とのつながりが持っていない。
- ・ 地域の行事があっても、習い事や家事を優先する傾向にある。

- ・参加するメリットが感じられないという声を多く聞く。
 - ・防災訓練や夜警活動には参加者が多い。
- ⇒ 近所の人や、マンション内に積極的に声掛けを行い、地域活動に興味のある人、自分からは手をあげられなくても声をかければ参加したいと思っている人を見つける。
- ⇒ 得意なことやできることをお願いすることから始めてもらう。
- ⇒ 子ども会→婦人部→町会→老人会という流れがあったが、子ども会の後切れてしまうことが多くなった。
- ⇒ 町会・自治会が地域の中学校に出向いて防災訓練に参加することを計画している地区もある。
- ⇒ 企業の参加を促し、寄付などにより参加者がメリットを感じられるような方法を模索すべきではないか。

○ 参加者 10 人

テーマ「組織の新陳代謝」 「町会・自治会の活性化」

組織の新陳代謝

- ・2年間限定で役員を変えていくのはどうか。
- ・小地域福祉活動は女性が多いが、町会の役員は男性が多い。
- ・町会・自治会は古い体質のまま変わらないところが多い。批判覚悟で改革しなくてはいけないと思う。町会を変えていくという視点で小地域福祉活動などで新しい人や仕組みを変えていく必要がある。
- ・若い人たちで、町会のお金の使い方がわからないから町会には入らないという人もいる。
- ・子ども会と町会は学校選択制でバラバラになっている。

町会・自治会の活性化

- ・町会会館の部屋をきれいにしたら様々な人が来るようになった。
- ・町会と福祉施設がもっと関わると良い。地域の資源を町会に貸し出すことで、町会にも新しい風が入ってくる。



○ 参加者 8 人

テーマ「地域内での子どもと高齢者の交流」 「マンション住民と町会が疎遠」

- ・高齢者施設の中に、高齢者向けのおもちゃサロンを置いているところがある。高齢者自身の癒しにもつながるが、高齢者と子どもの接点を作るようなこともできるのではないか。
- ・保育園とデイサービスが近くにあり、自然とふれあいにつながっているケースがある。

子どもたちが歌などの発表会をすると世代間のつながりがより深くなるのではないか。

⇒ 世代間交流のため、地域に「楽しみ」を増やすことが必要

「楽しみ」とは「世代を超えた参加者が見込める行事（ボーリング大会、ソフトボール大会など）」「住民の趣味を生かした『こだわり』の感じられる取組」などが考えられる。

地域の活動を実施していく上で、誰がどのように音頭をとるか。有効な情報発信の仕方ということが課題として挙げられたが、この2点については答えが出なかった。

○ 参加者 6 人

テーマ「地域における課題」

高齢化

- ・高齢化により町会の集まりが悪くなった。
- ・若い人の参加が少ないので、呼び込むことが必要である。

子ども

- ・児童館では食の提供ができないので、子ども食堂などがあると良い。
- ・親から虐待を受ける子どもも増えている。高齢者だけでなく、児童に目を向ける必要がある。

- ・登校のみまもり活動をしている。毎日同じ服を着ているなど目に見えることは気づきやすいが、それ以上見守ることは難しい。

定年後の居場所

- ・特に男性の居場所づくりが課題。現役時代の肩書が気になる。子育てに参加していなかったの

で、地域の活動に入りにくい。
会社の組織と地域コミュニティは異なるので受け入れにくい。など様々な理由がある。高齢男性向けの集まりがあってもいいのではないか。お願いするとやってくれる男性は多い。



障害

障害があると情報が入ってこないことがある。

他人とコミュニケーションをとることが難しい。

サロン活動

最初は女性だけだったが徐々に男性も入ってきた。次世代に受け継いでいくことが大切である。

○ 参加者 7人

テーマ「地域のつながりの希薄化（年代別）」

子育て世代

- ・狭い住居に住めないのか、2人目の子どもができると墨田区を出ていく世帯が多い。
⇒ 補助を増やす以外なかなか案が出なかった。
- ・子ども食堂に行ったことが周りの人に知られると貧困がばれてしまう。
⇒ 企業と提携して、フードバンクの設置をめざすのはどうか。

高齢者

- ・地域と関わらない高齢者の増加が大きな問題だと思う。
- ・年配の方が集まる場所がほしい。あっても行く人が少ない。出歩きたくなるような場所、集まりがほしい。
- ・地域活動の中心は60代でも若手といえる状況である。町会では何十年来の付き合いも多く、閉鎖的な雰囲気がある。
⇒ 祭り等を利用し、定期的集まって交流している場所があることを周知させることで、出ていく気持ちになるのではないか。交流する場については、お互いに知っていることを教えあう場があるといい。
- ・地域活動が閉鎖的になりがちだが、町会以外の軸を増やし、地域活動の間口を大きくすると良いのではないか。

青少年

- ・青少年が地域活動に参加しないことを問題と感じる。
- ・中学受験が盛んになり、中学以降地域に一切関わらない子どもが増えた。学校や家庭の問題で悩んでいる子ども、地域では目が届かない。
- ・地域で、青少年が行きたくなるような地域交流のイベントがあると良いのではないか。

全世代の人が集まれるような場所が増えるのが理想だが、現実的には難しいため、それぞれの年代で地域と関わるのが大切である。

○ 参加者 7人

テーマ「紹介された活動事例をうけて」

- ・防災訓練は、町会、小学校を含めて大規模にやっている。
- ・町会の組織に老人会、子ども会が入っている。
町会だけだと高齢になっていくので、子ども会を引き込むと良い。

- ・やはり、地域活動は世代交代がむずかしい。
- ・防災ブザーは耳が不自由でもわかるものがほしいと思っている。

○ 参加者 5 人

テーマ「次の世代を育てるには」「その他」

- ・マンションがどんどん建って、周りとの関係が希薄になっている。
- ・地域の民生委員を知らないのが不安
⇒民生委員のPRの場があると良いが、町会と連携するのがむずかしい。
お互いに溝がある場合があり、サポートし合うことができない。
- ・つながりが薄い中で次の世代を育てるのはむずかしい。
- ・個人情報やたらに厳しいので、周りとの関係も希薄になっていくのではないかと引越しの挨拶も無くなっている。
- ・高齢者（特に男性）の中には「他人様の世話にはならん」という人が多い。
支援が必要な人に行き届かない一つの理由となっている。

○ 参加者 6 人

テーマ「町会や各ボランティアグループでの高齢化と担い手不足」

- ・主要なメンバーが高齢化していくが、後継者が育たない。
- ・点訳ボランティアに参加しているが、若い人が少ない。
どうしたら若い人を呼び込めるか苦慮している。
- ・町会役員は高齢者中心となっているので、避難訓練をやってもいざというときに誰かを助けるというより助けられる立場という感じで、本当に必要な訓練内容なのか疑問である。
⇒ 活発な高齢者は様々な場で活動している。カラオケの会や防災備蓄品の豚汁試食会など、楽しい活動の時には多くの人が集まってくる。まずは楽しいことから入って仲間づくりをし、そこから地域活動の担い手になってもらう。

その他の課題

- ・ボランティアはできる範囲でやるのが大事だと思うが、団体側の求めることが大きすぎることもある。いろいろな役職を担うことを求められ、わずらわしいこともある。
- ・サロン活動ではけがや事故の無いよう準備するが、その準備に時間がかかりすぎ、本当に時間のある人しか参加できなくなっている。
- ・サロン活動に出てくるのは元気な高齢者ばかり。メンバーも固定化してひっそり暮らしている人は出てこない。
- ・子ども会も学校選択制により、成り立つことが難しくなっている。他の学区から通ってきている子もいて町会に入っていない子どもの扱いについて、いろいろな意見が出ている。

○ 参加者 6 人

テーマ「地域活動について」

- ・子ども食堂に興味があり、月に1回ボランティアをしている。子育て世代が増えた実感している。なかなか交流ができず、もどかしい部分もある。地域の資源（教員OB、わらじを編める人など）をいかして活性化したい。
- ・元気な高齢者を発掘し、旗持ち当番などは高齢者がやったら良いと思う。
- ・歳をとってから引越すと地域に入っていくのに勇気がいる。誘ってくれたから老人会に入ることができた。
- ・保育園にも学童にも、卒業した子どもたちが来る。大学生になってボランティアとしても来る。追体験が大切。
- ・小さい子はよく覚えているので地域の大切さを小さいうちから教育することが大切。
親が忙しかったとき、子ども会の人から誘ってくれたのがうれしかった。
- ・専門学校生はボランティアに興味がない、というか知る機会がない。

■ 発表会

「アイデア・ヒントを共有しよう！」

アイデア・ヒントを共有するため、3グループの方に話し合ったことを発表していただきました。



日頃から地域の方と企業・マンション等との話し合いが大切



世代間交流のため、地域に「楽しみ」を増やすことが必要



敷居を低くして、新しい人に入ってもらうような土台、仕組みをつくろう

■ 講師講評

発表会の後、皆さんのお話を受けて、講師から講評がありました。

皆さんのグループをまわって話を聞かせていただいたが、様々な課題が出ていたと思う。地域は多様性である。地域の問題は簡単に解決できることではない。

日本の法律は各分野に分かれているが、地域の中には子どももいる、高齢者もいる、障害を持った方もいる、外国人もいる、生活保護を受けている方もいる、まさに多様性の塊である。



皆、地域の生活者であるという視点が大切。そのためには一人一人を理解しなくてはならないが、これがむずかしい。これにはマニュアルは無い。皆さんの積み上げていく活動が「地域福祉」である。まずは活動することが大切である。

最近は町会・自治会活動以前に地域というものがないになっている。昔は地域コミュニティから福祉コミュニティを作っていたが、今はそれが難しくなり、福祉コミュニティから地域コミュニティを作っていく。まさに「福祉のまちづくり」から「福祉でまちづくり」である。サロン活動やみまもり活

動から地域コミュニティを作っていくというように変わってきている。

皆さんは、どうして地域活動をしているのか。「自分の住んでいる地域をよくしたい」「昔、お世話になったからお返ししたい。」という思いだと思う。地域はただ人が住んでいるのではなく、まさに「縁」があることでそのような考えが浮かんでくる。自分の地域に興味を持つ、自分で何かできることはないかと自問自答することが、活動が始まる原点である。

人は、誰も一人では生きていない。お母さんからおっぱいをもらい、他人が作った服を着て、他人が作った食物を食べ、死んだときは棺桶にも入れてもらう。私たちは他者との関係、人との関わりで生きている。これが、地域の力の根源にあると思う。

今日は活動事例紹介、グループディスカッションとやってきた。答えはなかなか出ないと思うが答えを導き出そうというプロセスが地域を作っていく。常にこのプロセスを踏んでいくことが地域になっていくことだと思う。

「人との関わりへの意味への気づき」これがボランティア活動の原動力となっていると感じている。これをきっかけに「縁」を育てていく。

地域づくりは簡単なものではないが、これを続けていくことが地域福祉である。

■ エンディング

墨田区社会福祉協議会栗田事務局長から、「今日のフォーラムで、町会・自治会活動はまさにボランティア活動であり、様々なボランティア活動と同様に、地域の皆さんによって地域の支えあいが行われているということを考えていただけたと思う。



墨田区は、23区の中でも町会・自治会加入率が比較的高いところで、65%となっているが、これも近年低くなる傾向にあり、役員の皆さんも高齢化している。町会・自治会は、大規模災害時のもとより、住みやすい地域づくりに対する役割の大きさを指摘されている。社会福祉協議会では、町会・自治会に対し、地域福祉活動を推進するための助成と、小地域福祉活動の支援をさせていただいている。本日参加の皆さんが一人でも多くの方がボランティア活動に参加してみたいと思っていただくことを願っている。」という話があり、閉会となりました。

■ その他

1 実行委員会の開催

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの企画・運営のために、「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会」を設置しました。

(1) 第1回

日時：平成30年4月10日（火）10時から

会場：墨田区役所 31会議室

議題：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム内容の検討

(2) 第2回

日時：平成30年4月26日（木）10時から

会場：墨田区役所 21会議室

議題：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム内容の検討
チラシについて

(3) 第3回

日時：平成30年5月18日（金）10時から

会場：墨田区役所 31会議室

議題：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム詳細の検討
PRについて

(4) 第4回

日時：平成30年7月2日（月）10時から

会場：墨田区役所 123会議室

議題：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム直前の確認

2 実行委員

五十嵐美奈、内田正代、鎌形由美子、栗田陽、佐藤幾洋子、須藤浩司、須藤正、高橋早苗、頭金多絵、並木実、前田恵子、山田英（敬称略：五十音順）

3 広報

区民に広く参加を呼びかけるため、次の事業PRを行いました。

- ・すみだ社協だより（6月号）、墨田区のお知らせ（6月21日号）、区HP、社会福祉協議会HP、チラシ・ポスター配布（区施設、町会、図書館等）等